

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392400160		
法人名	株式会社SOYOKAZE		
事業所名	半田ケアセンターそよ風 Aユニット		
所在地	愛知県半田市星崎町2-39-2		
自己評価作成日	令和5年9月13日	評価結果市町村受理日	令和5年11月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouCd=2392400160-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	令和5年9月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナの為外出の機会が減った分、食事のイベントに力を入れています。簡単なおやつをお客様と一緒に作ったり、お誕生日に似顔絵のケーキを用意するなど工夫しています。誕生日の日はお客様のご希望を聞きお好きな食事をお出しするようにしています。月に一度ご家族様にお客様の状況を書いた手紙と行事の様子等がのった新聞をお送りしお元気に過ごされていることをお伝えしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

春は桜で有名な刈萱公園が近くにあり、緑豊かで閑静な住宅地の中に事業所が位置している。デイサービスが1階に併設され、2階に2ユニットのグループホームがある。会社の理念、思いやりの三要素「自配り・心配り・心配り」を事務所に掲示し、計画作成担当者を仲立ちとして職員それぞれ入居者に寄り添い、笑顔で感謝の気持ちや思いやりを持って接することの重みを感じ取りながら、入居者がいつも笑顔でいられるよう日々のケアに努めている。盆踊りや山車祭りに参加したり朝市や憩の家のサロンに入居者と一緒に出掛けて地域の方と交流したり、事業所の夏祭りにはゲームなどの催し物に地域の方々も参加して交流を深めたり、併設するデイサービスの行事にも参加したり、高校生や専門学校生の教育の場を提供する機会としていたがコロナ禍で自粛をし、今は状況を見ながら再開の機会を模索しつつある。友人、家族や孫などの来訪時には、玄関フロアの大きなソファに腰かけ、心温まる談笑に和で華やいだひと時が垣間見られる。習字などの趣味や、調理の準備や後片付け、洗濯物干しや洗濯物たたみ、掃除など日常の家事を職員と一緒に楽しみながら行っている。明るくゆったりとしたリビングでテレビを観たり、ゲームやカラオケを楽しんだり語り話ったりして穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	事業所理念は施設内に掲示してあり管理者や職員が実践に繋げていけるようにしています。	会社の理念である、思いやりの三要素「目配り・心配り・心配り」を事務所に掲示している。職員一人ひとりが入居者に寄り添い、笑顔で感謝の気持ちや思いやりを持って接することの重みをコロナ禍で改めて実感し、日々のケア中で振り返りながら実践に繋げるよう努めている。	会社理念に全職員の意識を近づけるため「目配り・心配り・心配り」の心遣いについて職員で話し合い、グループホーム独自の具体的な目標を設定し、各自の行動の指針として日々のケアを振り返りながら活かしていくことを願いたい。また、年度ごとに目標について検討し、理念に近づけていくことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナもあり外部との交流は減っているがコロナが落ちついたら地域との交流の機会を作りお客様が地域の中で楽しく暮らせる様取り組んでいきたいです。	町内会には加入していないが、民生委員や憩いの家のサロン、広報誌などで情報を得ている。今まで参加の自粛をしていた盆踊りや山車祭り、朝市や散歩などは感染状況を確認しながらはあるが参加していく方向にある。平常時において、事業所の夏祭りに地域ボランティアの協力を得たり、ゲームなどの催し物に地域の方々も参加して交流を深めたり、併設するデイサービスの行事に参加したり、高校生の体験学習や専門学校生の実習の受け入れなどの機会については、今後感染状況を確認しつつ再開できるよう検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナが落ち着いたら地域の方たちと交流する機会を作り、認知症の理解を深めて頂けたらよいと思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの為、開催は見送り、書面にて行っているがハガキにてご家族様のご意見や質問等を聞いています。それをもとに質の向上に向けて取り組んでいきたいと思っています。	引き続き書面により2か月に1回開催している。事業所の運営状況や活動内容、事故報告、感染予防対策等の報告を議事録として入居者家族や市の担当課に意見聴収用の返信葉書を同封して送付している。返信された葉書には質問や意見、また職員に対する励ましやねぎらいの言葉などが寄せられ職員の励みやサービスの向上に活かしている。地域住民の代表者への開催案内や議事録など、書面開催時より留まった状態となっている。	コロナ禍により書面開催が余儀なくされ、5類移行後も対面での開催の中止を連絡しているが、地域住民の代表者に開催案内や会議録が届けられていない状況が続く繋がりが希薄になっている傾向がみられる。地域密着型のサービス事業所として地域住民の代表者にも提供しているサービスの内容等を明らかにしサービスの質の確保をするために、地域住民の代表者にも開催案内や会議録を通して意見や情報の交換ができるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	センター長が中心に行っていますが、事故等発生の際は市町村に連絡をしています。	通常は、運営推進会議に市の担当者が毎回出席しているが、書面開催のため会議録は郵送している。必要に応じてメールや電話で情報やアドバイスを得ている。担当窓口には介護保険更新手続きや申請の代行業務等で訪れた際、事業所の取り組みなどを伝え、情報交換をしたりアドバイスや指導を受けるなど、良好な協力関係を築いている。職員が市主催の研修会に参加できるよう研修内容を事務所に掲示している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を行い、会議の中でも拘束をしないケアについて話し合いをしています。	身体拘束適正化委員会を毎月開催し、身体拘束をしないケアを職員に周知している。また、職員はアンケート方式で自己チェックし、自己のレベルに気付き、注意すべきことを明確にして拘束に対する意識を高め、職員間の認識の共有を図っている。スピーチロックには特に留意し、日々の何気ない動作に気を付けながら、入居者一人ひとりのその日の気分や状態をキャッチし、職員の見守りの中で開放的で自由な暮らしができるような支援に努めている。毎月身体拘束と虐待の研修を交互に行うことで、職員の意識の向上と自身で悟れることを目指している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行っており、会議の中でも言葉遣いやケア方法について適切であるか話し合い行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について研修は行っているがよく知らない職員もいるため理解を深めていける様学ぶ機会を作っていきたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は説明を行い、ご理解して頂くとともにご本人様の状態やご家族様の想い、不安なこと等お気持ちを時間をかけ、話をするようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にてご家族様のご希望や意見を聞き、運営に反映できるように取り組んでいます。	入居者からは日々の関わりの中からも思いを聞き、記録し全職員が共有してケアに繋げている。家族とはこまめに電話で連絡を取るようになっている。また、運営推進会議録に同封したの返信葉書に意見を書いて頂いたり、衣類の受け渡し時、面会時などで意見や要望を聞き、ケアや業務改善に役立っている。毎月各ユニットごとに、担当職員からの手紙と入居者の日常の様子の写真やコメントの入った新聞を発行し家族には安心感を届けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の際に意見や提案をして頂き、話し合いを行っています。また個々に話を聞くことも多くあります。	計画作成担当者がグループホームのリーダーとして日々の業務の中や申し送り時、ユニット会議やグループホーム会議などに参加して職員からの意見や提案を聞き、見直しや業務の改善などに努めている。人事評価システムを導入し、それぞれが設定した目標に向けた自己評価を行い、自らの力量を正しく理解し、より良いケアに繋げるよう努めている。施設長は評価票を基に年2回面談し、職員の要望や意見、悩みなどを聞き、業務や職場環境や処遇に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員不足の中、職員個々の希望や考えを聞き、調整行う事で職場環境の整備に取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社する際に研修を行っています。コロナの中積極的な研修の参加は難しくなりましたが、職員の希望に応じて研修の参加を支援しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの中、難しい状況ですが徐々に交流する機会や勉強会等を行い、サービスの質の向上に向けて取り組んでいきたいと思っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入の段階でご家族様、ご本人様が困っていることや状況をよく聞き、ご本人様に合ったサービス提供が出来る様支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入の際にご家族様の想いやご希望をよく聞き、お気持ちに沿った対応が出来る様取り組んでいます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入の段階で状況をよくお聞きし状態にあったサービス利用が出来る様努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の暮らしの中で職員もお客様も共に楽しむことを大切に良い関係づくりに取り組んでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に毎月手紙を送り、ご本人様の状態や日々の様子などを伝えています。通院等の対応をお願いし、共に情報共有をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友人や親戚等ご本人様の今までの関係が継続出来る様支援しています。	入居時にこれまでの生活歴を入居者や家族から聴き、入居者が大切にしてきた人や場所、物事が続けられるよう支援に努めている。コロナ禍に引き続き買い物や外食などは自粛しているが、感染状況を確認しながら家族の協力を得て自宅に帰る孫と過ごしたり、お墓参りや食事に出掛けたりして関係の継続に努めている。また、友人や親戚の方の電話を取り次いだり、友人が訪ねて来て一緒に出掛けるなど馴染みの関係の継続に努めている。また、その方の趣味や日常の洗濯物干しや食器拭きなど家事仕事の継続支援にも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の相性や状態等を考えながら皆さんが孤立せず楽しく過ごせる様努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お客様のご希望に応じ実施しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様とコミュニケーションを計りながらご希望や思いを聞き、困難な方はご本人本位で考える様努めています。	日常の入居者との、さりげない会話や表情などケアの中から感じ取ったり、入居者の気持ちに寄り添い、入浴時や夜の落ち着いた時間帯など、のんびりとした時間の中で思いや希望を聴くようにしている。聴き取った思いや希望などは記録に残し、職員間で共有してケアに繋げている。思いの表出の少ない方は、身振りやうなずき、表情や態度などから把握し、本人本位に検討し思いに寄り添う支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様に御協力頂き、聞き取りしながら把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を把握し、アセスメント行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議を行い、ケアのあり方やご本人の想いを考えながら介護計画書作成をしています。	職員は日常の記録をiPadに入力しPCと連動させて電子カルテで管理し、常に確認するようにしている。毎月のユニット会議で問題や課題について話し合い情報交換をしている。また、気づきや特記事項は申し送り共有している。計画作成担当者は個別記録の情報や入居者や家族の意向や希望を直接聞いたり、医師の意見を参考にしたりしながら実現可能な目標を設定し介護計画を作成し、毎月のモニタリングを経て半年毎に介護計画の見直しをしている。状態が変化した時は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の記録をiPadに入力し、気づきや特記事項は申し送りし全員が共有するようにしています。その情報は介護計画見直し時に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の状況でニーズやご希望に変化があればその都度対応し適切なサービス提供が出来る様努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの中地域資源の活用は難しいですが、地域資源を把握し地域の中で楽しく暮らせるよう支援していきたいと思います。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様のご意見を聞き、ご希望の病院で適切に医療が受けられる様支援しています。	入居時にかかりつけ医の継続か提携医の往診かの希望を聞いている。内科や歯科は月1回の往診があり、週1回訪問看護師による健康管理も行われている。かかりつけ医の場合は家族の協力を得ているが、困難な場合は職員が付き添い受診をしている。受診後は家族や職員に受診結果を周知しケアにつなげている。身体状況に変化があった場合や緊急時は、24時間体制で医師や事業所の看護師、訪問看護師、協力医療機関による連携体制のもと、速やかに適切な医療が受けられるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	センター長、訪問看護と情報共有し、気づきや情報はiPadに入力し全員で共有できるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のソーシャルワーカーと連絡を取り情報共有を行いながら退院に向けた支援を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、看取り期に近づいた時にご家族様に説明を行い、納得した上で判断して頂いています。	入居時に重度化や終末期、看取りについて家族に方針等を説明した上で意向や希望を確認し、家族の同意を得ている。重度化する可能性がある場合や状況が変化した場合はその都度、入居者や家族に希望を再確認し可能であれば看取りも受け入れている。また、医師や看護師、訪問看護師その他関係機関と話し合いながら、入居者にとって最善の援助ができるよう努めている。また職員が看取りに向けてチームで取り組むためにセンター長による医療や介護、メンタルケアなどの勉強会が毎月行われている。コロナ禍であっても、予防対策を取りながら家族も共に看取る体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修実施しているがよく分からない職員もいるため今後訓練にて実践力が身に付くよう取り組んでいきたいと思っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練実施し災害時の避難の仕方等学んでいます。	年2回の内1回は併設の事業所と合同で消防署員立会いの下、昼間・夜間帯の職員体制で火災や地震を想定した避難訓練を実施している。夜勤専門の職員も参加し、初期消火訓練や避難誘導、避難経路の確認をしている。訓練終了後に消防署員から訓練状況の総評を得ている。指摘された個所や課題については、運営推進会議やカンファレンスで話し合い改善に向けた取り組みを行っている。備蓄は3日分の水や食料と、懐中電灯やヘルメットなどの備品を用意し、リストを倉庫に掲示している。AEDの研修は毎年行われている。地域との協力関係は今後の課題となっている。	想定外の災害が起こっている昨今であり、その時、事業所はどのような立ち位置にあるかを知ることは重要と考えられる。事前に、避難訓練の実施日や非常ベルを鳴らすことを近隣の住民の方に知らせたり、運営推進会議で情報を発信したり、事業所として地域に協力できることや地域に協力をして頂きたいことなどを模索し、災害に備えることを願いたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の会話の中で言葉遣いやプライバシーを尊重した対応に努めています。	人生の先輩として個々の生活スタイルを守り、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。職員は、日々のケアの中で、馴れ馴れしさや特に雑になりがちな言葉使いや声のトーンなどに配慮し、「いつ誰が聞いても不快にならない言葉使いや対応」をできるように、確認し合いながら支援に努めている。呼び名は「さん付け」に統一し失礼の無いよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを取りながらご希望や思いを聞き、自己決定が出来る様、個々の状態に合わせた支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限りお客様の気持ちを尊重し個々に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様に御協力頂き、好まれる服を持ってきて頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく食事が出来るように食事内容や食事形態は工夫しています。出来る方は食器ふき等一緒に行っています。	食材は地元の八百屋から仕入れ、本社管理栄養士による献立を基に、各ユニットで調理方法や量、好みなど考慮し、三食手作りしている。また、苦手な食材や持病で制限のある方には減塩食や代替食を用意している。入居者は保有能力に合わせて、食材の下処理や後片付けなどを職員と一緒にしている。誕生日には希望を聞いてお寿司や鰻など人気の食事を提供したり、土用の丑の日には駐車場で炭火焼きした鰻やお正月のおせち料理、節分、雛祭りなどの行事食を楽しんだり、専門店の和菓子を取り寄せセレクトして抹茶と頂いたりしながら五感でも楽しめるよう工夫をしている。職員も入居者と同じ食事を摂っている。また、刻みやミキサー食の方のトロミや刻み具合など必ず検査をして提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し職員間で情報共有しています。個々に合わせ必要な量や内容を検討しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、出来ない方は介助にて口腔内の清潔保持に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けや介助にてトイレ利用を促している。立位が難しい方も職員二人介助でトイレ利用を行っています。	排泄チェック表を参考に一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない声掛けやタイミングを工夫してその人にあったトイレ誘導に努めている。立位が難しい方でも介助の方法を工夫しながらトイレで座位での排泄支援に努めている。夜間も、尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切に、見守りと誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	状態を把握し、下剤の使用や牛乳で排便を促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や時間はだいたい決まっているがご本人様の希望に合わせて行うよう努めています。	各ユニットの浴室には個浴槽が2個備わり、二人、入浴ができる環境となっている。入居者の希望に沿ったゆったりした時間に、入居者の体調を考慮しながら、週3日～4日を基本に入浴支援をしている。入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らい、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。冬季は脱衣室や浴室を暖めてヒートショックに配慮している。ゆず湯やしょうぶ湯などで季節を感じたり、入浴剤を利用し温泉気分を味わうなど工夫しながら入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態により休息の時間を作ったり安心して休める環境づくりに努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状態を主治医や薬剤師に伝え連携を計りながら薬の効果や副作用、状態変化等把握に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を把握しお好きな物の提供や趣味等楽しく過ごして頂ける様取り組んでいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様が対応して下さる場合はご協力をお願いしています。コロナの為外出の機会は減りましたが落ち着いたら徐々に外出の機会を作りたいと思います。	近くに桜が咲く公園があり緑豊かな環境に恵まれている。天候や体調に合わせて散歩に出かけたり菜園の手入れや野菜の収穫をしたり、ベランダで洗濯干しをしたりして季節の移りを感じながら外気に触れる機会を大切にしている。外出の規制も少しずつ緩和され、入居者は家族の協力を得ながら外出や季節のお花見に出かけている。今後、アフターコロナの状況も確認しながら季節の花見や四季の移り変わりが楽しめるような外出支援の再開を考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失やトラブルを避けるためフロア内にお金を持ち込むことは控えているが、金庫にてお預かりし必要時使える様支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様からご希望はなく実施していないが、ご希望があれば対応していきたいと思えます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアは季節感が出るような工夫をし、個々に快適に過ごして頂けるような環境づくりをしています。	2階にあるグループホームは、事務所を中心に左右にユニットが配置されている。食堂と居間がワンフロアでベランダから自然な採光と風を感じられる共用空間となっており、キッチンからは入居者の様子が一目で見渡せるようになっている。また、空調管理や不快な臭いや音などもなく快適な環境が保たれている。居間には、季節の行事の写真や習字や塗り絵などの作品を飾り、それぞれのユニットで思考を凝らした共用空間となっている。余暇の時間には、入居者は好きな書き物やぬり絵をしたり、新聞やチラシを見て談笑をしたりソファに座ってビデオを見てたりしてゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々にお好きな場所で過ごされているが気の合った方同士で楽しく過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で愛用されていたもの等ご家族様に持ってきて頂いています。	居室には、壁面収納の大きなクローゼットや棚が備え付けられ、空間を広く使えるよう工夫されている。入居者は、使い慣れたベットや筆筒、テレビ、椅子などを持ち込み、孫の作品や家族の写真、信仰している宗教の仏具など好みのものを飾って安心して落ち着けるスペースを確保している。ベットの位置や部屋のレイアウトを自由に決めて、それぞれの生活スタイルで居室をコーディネートして居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態に合わせ出来ることはやって頂き出来ない部分はお手伝いさせて頂いています。自己にてされる場合は危険のない様に環境整備、見守りしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392400160		
法人名	株式会社SOYOKAZE		
事業所名	半田ケアセンターそよ風 Bユニット		
所在地	愛知県半田市星崎町2-39-2		
自己評価作成日	令和5年9月13日	評価結果市町村受理日	令和5年11月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2392400160-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階
訪問調査日	令和5年9月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様の自立度が高いためご家族様や友人と買い物や外食の為、外出される方や電話で話をされる方がおり、自由に過ごされています。個々の出来る力を大切にし、自由に過ごして頂ける様支援しています。糖尿病等の持病や好き嫌いが多くの方がおり、その方に応じて食事のメニューや形態等工夫しています。レクリエーションでは皆さんが歌がお好きのため懐かしい歌をよく唄いながら楽しく談笑しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

春は桜で有名な刈萱公園が近くにあり、緑豊かで閑静な住宅地の中に事業所が位置している。デイサービスが1階に併設され、2階に2ユニットのグループホームがある。会社の理念、思いやりの三要素「自配り・心配り・心配り」を事務所に掲示し、計画作成担当者を仲立ちとして職員それぞれ入居者に寄り添い、笑顔で感謝の気持ちや思いやりを持って接することの重みを感じ取りながら、入居者がいつも笑顔でいられるよう日々のケアに努めている。盆踊りや山車祭りに参加したり朝市や憩の家のサロンに入居者と一緒に出掛けて地域の方と交流したり、事業所の夏祭りにはゲームなどの催し物に地域の方々も参加して交流を深めたり、併設するデイサービスの行事にも参加したり、高校生や専門学校生の教育の場を提供する機会としていたがコロナ禍で自粛をし、今は状況を見ながら再開の機会を模索しつつある。友人、家族や孫などの来訪時には、玄関フロアーの大きなソファに腰かけ、心温まる談笑に和で華やいだひと時が垣間見られる。習字などの趣味や、調理の準備や後片付け、洗濯物干しや洗濯物たたみ、掃除など日常の家事を職員と一緒に楽しみながら行っている。明るくゆったりとしたリビングでテレビを観たり、ゲームやカラオケを楽しんだり語り話ったりして穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員は事業者理念を共有し、日々の業務の中で実践していけるよう心掛けています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの為交流が難しくなりましたが、コロナが落ち着いたら実践していきたいと思えます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナが落ち着いたら地域の方に認知症について知ってもらえるような取り組みをしていきたいです。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ渦の為運営推進会議は中断されているが書面にて状況を報告しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	センター長を中心に連絡を取り、状況を説明しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束の研修をしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	会議にて定期的に研修を行い、話し合いをしています。言葉遣いや対応方法など適切であるか検討しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用されている方はいませんが研修で学ぶ機会を作っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分説明を行い納得して頂いた上で契約をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて意見をお聞きしていましたが、中断しているためハガキに意見等を書いて郵送して頂いています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場で意見や提案を聞く機会を作り、話し合いしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課、自己評価実施しています。働きやすい職場環境を目指し取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの為法人内外の研修参加の機会は少ないですが個々の力量に応じ必要な研修が受けられるよう取り組んでいきたいです。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの為交流が難しくなりましたが、落ち着いたら勉強会やネットワーク作りに取り組みたいです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	よくお話を聞きながらご本人様の背景を知り良い関係作りを心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の困っていることや希望等を聞き、様々な背景を理解しながら関係作りを進めていきたいと思ひます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況を確認し今必要なサービスが適切に受けられるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の意志や考えを第一に尊重し良い関係を築きながら対応しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院、外出、外食等はご家族様の考えを尊重しながらご協力をお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の意思を尊重しながら、ご家族様にお願い出来ることは協力して頂き、共に支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様一人一人を理解し全員参加でレクリエーション、行事が行えるよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご希望があれば相談に応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様の言動や様子に気付きを持ち個々の思いや希望をくみ取れるよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様に聞き取りをしスタッフ間で情報共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人一人が気づきを持ち、申し送りや情報の共有をする事で状態の把握に取り組んでいます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議にて話し合いを行い、現状に対応して介護計画の作成に取り組んでいます。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアカルテ(iPad)に入力し様子や気づきなど詳細に記録を行い情報共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に気づきを持ち、その都度生まれるニーズに対していきます。話し合いを行いながら適切なサービス利用に繋げていける様努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、活用することでお客様の生活が豊かなものとなる様支援していきたいと思います。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医もいるが、ご家族様、ご本人様に主治医を選んで頂き、適切な医療が受けられるよう支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	センター長、訪問看護と情報共有し、相談しながら適切な看護が受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカー等と連絡を取り合い、退院に向けた調整を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時と看取り期に説明、確認を行い、グループホームで出来る事をご理解頂いています。その上で看取りについての選択をして頂ける様支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を行っていますが、実践力を身につけるため、継続して取り組んでいきたいと思っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、災害に向けて避難方法を確認し、身につけられるよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人、一人に合った対応を行い尊厳を大切に言葉かけを行うよう取り組んでいます。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	否定しない様話を行いご本人様の想いを大切にしながら自己決定が出来る様促しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の気持ちを大切に無理強いせず危険のない様見守っています。ご希望にそえる様努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立度の高い方が多いお為衣類は自己にて選択して頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ることはお手伝いして頂き、野菜のヘタ取や食器ふき等一緒に行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配膳前に食事形態のチェックをしています。好き嫌いや塩分制限等ある方がいるため、個々に合ったものを提供しています。水分は水分摂取量を記録し摂取を促しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本はご本人にお任せしているが、声掛けや促しをしています。毎食後行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間ごとにトイレ誘導しているが個々に合わせ対応しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤服用、水分摂取の促しをしています。出にくい方は主治医と相談し下剤の変更や対応を考えています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯等だいたい決まっているが、個々に合わせ支援をしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具等はご本人様の物を持ち込んで頂き、使い慣れたもので安心して休んで頂ける様支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病歴や既往歴の把握、情報共有を行い、主治医や薬剤師、看護師と連携しながら支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌がお好きな方が多くレクに歌を取り入れ、楽しんで頂ける様工夫しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様の希望を聞きながらご家族様にお願いし協力して頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をフロアに持ち込むことは控えて頂いているが、金庫でお預かりし必要時使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様、ご家族様のご希望を聞き対応しています。電話が出来る様支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に保つよう環境整備を行い、お客様にとって心地よい空間となる様努めていきます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々にお好きな場所へ移動し、居室で過ごされたり皆さんと仲良く談笑されています。自立度が高い方が多いため自由にご本人様の意思を尊重する様努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様、ご家族様と相談しながら快適な空間となる様努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の出来る力を活かし、安全を見守りながら自立を支援出来る様心掛けています。		